

横浜ユーラシア文化館企画展 横浜マニラ姉妹都市締結 50 周年記念事業

貿易都市マニラの栄光 ―考古学が語る太平洋航路の成立と発展



青花皿

掲載資料 サン・ディエゴ号沈船遺跡出土 フィリピン国立博物館蔵

[開催期間] 2016 年 1 月 30 日 (土) から 4 月 3 日 (日) 65 日間 (内開館日数 56 日)

[主催] 横浜ユーラシア文化館

[共催] 横浜市教育委員会

[協力・後援] 協力：フィリピン国立博物館 後援：フィリピン共和国大使館、朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、日本経済新聞社横浜支局、毎日新聞横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、NHK 横浜放送局、TVK

[休館日] 毎週月曜日 ただし 3 月 21 日 (月・祝) は開館、3 月 22 日 (火) は休館。

[開館時間] 9:30～17:00 ただし祝日を除く水曜日は 19:00 まで開館 (券売は閉館の 30 分前まで)

[入館料] 一般 300 円、小・中学生 150 円

展示概要

2015 年、アジアの国際的港都である横浜とフィリピン共和国の首都マニラは、姉妹都市提携 50 周年を迎えました。これを記念し、横浜ユーラシア文化館では、東西を結ぶ貿易都市として栄えたマニラの姿を考古学の発掘成果を通してご紹介する企画展を行います。

9 世紀前後にはすでに中国やイスラームの商人が到来するなど、フィリピンは古くから海上交易の要衝でした。

15 世紀中葉、当時のヨーロッパの強国スペインとポルトガルは、アジアへそして未知の世界へ、競って大規模な航海を試み始めました。大航海時代の始まりです。アフリカ大陸南端の喜望峰を経由して東に向かうルートを開拓したポルトガルに対し、スペインは西へ向かい、新大陸を経由してアジアに至るルートを開拓します。

彼らが求めたのは中国の高級磁器や東南アジアの香辛料です。それらを得るためにスペインがアジアの拠点とした場所、それがマニラでした。以来、マニラは、中国、東南アジア、新大陸、そしてヨーロッパの文物が行きかう国際都市として栄え、マニラから太平洋を横断して新大陸のアカプルコに至る航路が確立されます。日本の肥前の磁器がフィリピン経由で新大陸まで運ばれたことも、考古学的資料から明らかになっています。

都市としてのマニラの繁栄は、スペイン統治下におけるものであり、現地の人々にとっては必ずしも幸福をもたらすものではありませんでした。しかし、当時のマニラが、ヨーロッパとアジアをつなぐ都市として世界史上重要な役割を果たし、その時代にもたらされた外来の文化が、現在のフィリピンをかたちづくる要素となっていることも確かです。

本展では国外初公開資料をふくむフィリピン国立博物館所蔵の考古学的資料約 60 点を展示し、新大陸を経由してヨーロッパとアジアを結んだ港町マニラの華やきを伝えます。

展示構成と主な展示資料

プロローグ

アジアの富を求めて—スペインからメキシコ経由マニラへ

ヨーロッパ世界がアジアに向かった時代背景を説明します。※パネル展示

I. マニラ前史

スペイン時代以前のマニラ—サンタ・アナ遺跡の調査成果
スペイン統治以前、すでにマニラはアジアの国際都市でした。マニラ市内にあるサンタ・アナ遺跡の発掘成果から当時のマニラの姿を考えます。

〔主な展示資料〕

サンタ・アナ遺跡出土中国製陶器



褐釉小壺 中国 サンタ・アナ遺跡出土
フィリピン国立博物館蔵

II. スペイン人によるマニラの建設と発展

イントラムロスの建設と考古学的調査の成果

マニラに到達したスペイン人たちは、イントラムロスと呼ばれる城塞都市を建設します。当時はスペイン人だけが住んだイントラムロスには、彼らが求めたアジアの製品があふれていました。イントラムロス内外の遺跡の出土資料や遺跡の写真を展示します。

〔主な展示資料〕

イントラムロス出土の中国製磁器、日本製磁器



染付皿 日本肥前 イントラムロス出土
フィリピン国立博物館蔵

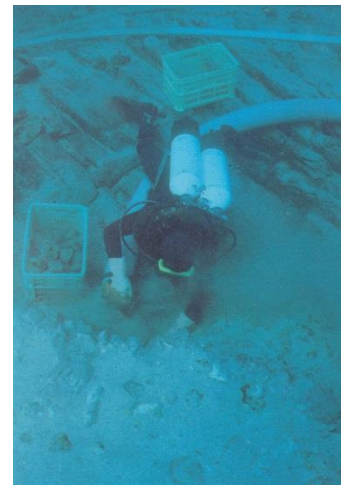
III. スペイン期におけるガレオン貿易とマニラの発展

沈没船サン・ディエゴ号の調査成果

ガレオンとよばれる帆船によるマニラとヌエバ＝エスパーニャ（現メキシコ）の都市アカプルコの交易が盛んにおこなわれるようになったころ、ヨーロッパで勢力を持ち始めたオランダが、マニラにも進出を始めます。1600年12月、マニラ湾でスペイン船とオランダ船の戦闘がありました。このとき沈没したスペイン船サン・ディエゴ号が、1990年代に調査されその積み荷が明らかになりました。海底考古学の成果である、サン・ディエゴ号引き揚げ資料の一部を公開します。

〔主な展示資料〕

サン・ディエゴ沈船遺跡出土の中国製磁器、ヨーロッパ製オリーブ壺、ヌエバ＝エスパーニャの銀貨、フィリピン製土器



サン・ディエゴ沈船遺跡の調査
フィリピン国立博物館提供

エピローグ

現代の太平洋航路—アメリカ大陸から横浜、そしてアジア諸国へ

マニラ—アカプルコ間のガレオン貿易は、スペインのフィリピン撤退とともに終わり、やがて北アメリカからアジアに向かう太平洋航路の寄港先に横浜が加わる日がやってきます。ガレオン貿易の終焉とその後を説明します。 ※パネル展示



青花磁片埋め込み土器
サン・ディエゴ沈船遺跡出土
フィリピン国立博物館蔵

関連事業

（１）関連展示(期間 企画展開催期間に同じ)

①横浜マニラ姉妹都市締結 50 周年

姉妹締結の書類やそのきっかけとなった 1964 年マニラ市長横浜訪問時の写真を展示。

【会場】 2 階常設展示室「伝える」コーナー

【観覧料】 企画展観覧料・常設展観覧料に含まれる。

②写真展 フィリピンを掘るーフィリピン考古学を支えた日本人

フィリピン考古学の発展につくした日本人研究者の調査写真を展示。

【会場】 1階ギャラリー

③写真展 フィリピンの教会建築

世界遺産にもなったフィリピンの教会と日本人も協力するその保存活動を写真で紹介。

【会場】 1階旧第一玄関



城塞都市イントラムロスにあるマニラ大聖堂（1571年創設） 田中和彦撮影

（2）関連講演会

【日時】 2015年2月13日（土）14:00～

【内容】 考古学から見たマニラ

【講師】 田中和彦（上智大学言語教育研究センター講師、フィリピン国立博物館研究員）

【会場】 情報文化センター情文プラザ

【受講料】 500円（企画展招待券付）

【定員】 80人（申込み多数の場合は抽選）

【募集】 チラシおよびウェブサイトにて告知。

【申込方法】 往復はがきまたはウェブサイト

【申込み締め切り】 2015年2月2日（火）必着

（3）ギャラリートーク

学芸員による展示解説

【開催日】 2015年2月7日（日）、21（日）、24日（水）、3月6日（日）、20日（日）、30日（水） 日曜日：11:00から。水曜日 18:00から。各回30分程度。

（4）ワークショップ

- ・東西貿易地図ぬりえ
- ・ペーパークラフト帆船作り

お問い合わせ先

横浜ユーラシア文化館 担当 畠山 禎（展示）、神谷 量子（広報）Tel 045-663-2424